

# 日本共産党

## 森本ふみお 後援会ニュース

2013年  
9月20日  
No126

日本共産党森本ふみお後援会事務所  
井原市木之子町2721-23  
TEL62-6061 FAX62-6081  
〔部内資料〕

9月9日、井原市議会9月定例会が開会しました。会期は9月30日までの22日間です。一般質問は、11日、12日、13日の3日間行われ過去最高の16議員が質問しました。森本議員は11日に質問し、連続98回目の質問になります。森本議員の質問と執行部答弁の概要は次のとおりです。

2学期制検証委員会のこれまでの検証内容と今後の見通しについて。

もし3学期制に戻すこととなりますと、学校、保護者、市民への周知のほか、教育課程の見直しや、通知表の変更、行事の在り方の検討などがあります。26年度からの実施が可能かどうかにつきましては、校舎長会との十分な協議が必要と考えます。最終判断は教育委員会で行いますが、実施時期は校舎長会のご意見を採り入れたものにしたい。

市として就労継続支援A型事業所の創設のために強力な援助をすべきでは。

本市としまして、市内在住の通所障害者の利便を図るため、A型事業所を市内にたち上げるときに、事業者は今後どのような支援ができるのかを検討するとともに、A型事業所が創設されるよう、現在あるB型事業所（芳井ふれあい作業所、こだま園東江原、せいび夢空間）からA型への転換や、B型事業所への併設ができないかなど、まずは市内事業者に働きかけていきたい。

各地にある「避難場所」という看板の更新を。

旧井原地区内では、文字が消えているなど更新が必要と判断しているものが15施設あった。現在、看板を準備しており、準備できしだい早急に更新します。

「フットサル」のできる会場（施設）を増やしては。

他の競技に比べて強い勢いでボールが壁や付属設備に当たり破損することが懸念されますので、施設設備の改修が必要となり経費も必要になります。このようなことから既存の井原市勤労者体育センターを利用していきたい。

幼・小・中・高等学校の普通教室にエアコンの設置を改めて提言させていただきます。

現在、本市の学校施設の整備については、大きな課題が2つあります。1つ目は、市立高校の移転新築、2つ目は、井原中学校の改築です。市立高校については、今年度用地確保ができ、設計にも着手し一定のめどがたった。井原中学校の改築については、現在、県によりまして急傾斜地崩壊対策事業が進められており、工事が完了するまでは改築の事業化のめどがたてられない状況です。こうした中で、幼、小、中学校のエアコン設置については井原中学校の改築と合わせて、財源の確保、校舎の電気設備の改良や増設、室外機の設置場所の確保、設置後の電力使用料の抑制などについて調査研究を進めます。市立高校については、建設設計の中にエアコンの設置を盛り込むことにしています。

住宅リフォーム補助金事業を来年度も継続し、制度のさらなる充実・改善を。

市民のみなさまからも大変喜ばれており、多くの補助金申請があり、住宅のリフォームが行われております。今年度は、8月末現在で198件の申請があり、補助金の見込み額は約3千万円で、経済効果額は約4億8千万円となっています。この補助制度も3年目を迎えていますので、成果の検証や今後の経済情勢などを勘案しながら、来年度以降について、今後総合的に検討していきたい。

幹線の道路標識を一層改善・充実しては。

この度調査した結果、市外への案内標識を国道486号線の井原警察署の東詰交差点、広域農道の才児あたりと県道的美袋井原線との交差点の3箇所整備する計画です。今後も市内の主要交差点の点検を実施し、必要性の高い箇所から順次整備を行い、道路案内標識の改善・充実を図っていきたい

この「後援会ニュース」は、森本ふみお議員のブログ (<http://m.okajcp.com>) でも見れます。

周りの人に「日本共産党森本ふみお後援会」への入会をお勧めください。

## 日本共産党はこう考えます

しんぶん赤旗  
「主張」より

### 東京五輪2020 アスリートの願いに答えて

2020年の夏に東京にオリンピック・パラリンピックがやってきます。引き寄せたのはアスリート（競技者）の力です。

開催都市を決める最後のプレゼンテーションでの訴えは力強く、心に響きました。「スポーツが夢、勇気、きずなを与えてくれた」「大震災の被災者とチームが一丸になれた」。スポーツで得た貴重な体験と思いが込められていました。

#### 現実と向き合い連帯し

社会の現実と向き合い、連帯し、けん引役となる一この間、国民とアスリートとのあいだに太く築かれてきた心情です。そこに手ごたえをおぼえた多くの国際オリンピック委員会（IOC）委員が、「明日のオリンピック」を東京に託したのでないでしょうか。

56年ぶり2回目となるオリンピックの東京開催です。国の総力でやり遂げた1回目の1964年大会と大きく違うのは、スポーツが国民生活に溶け込み、世界を知るアスリートたちが躍動していることです。国民とアスリートこそ「東京2020」の担い手です。

さっそく問われるのが、近く設置される大会組織委員会の陣容です。昨年ロンドン大会の組織委員長はオリンピックで活躍した選手でした。スポーツの祭典にふさわしい構成になるかどうか、男女、障害者を問わず競技関係者の大胆な登用が求められています。

これからは国民の関心も選手強化に向けられていくだけに、スポーツ界での暴力・「体罰」の根絶が焦眉の課題になっています。開催を負託された国としてオリンピックの根本原則「スポーツを行うことは人権の一つである」との自覚を持って、競技団体がこの問題に向き合い、国民の信頼回復に努めてほしいと思います。



競技施設の整備も競技者や観客の目線での検討が迫られています。「コンパクト五輪」がうたわれていますが、老朽化した国立競技場の改築も新設予定の22の競技会場も、競技に専念でき観戦を楽しめる施設に仕上げることです。多くの人びとが活用できる後利用への考慮も大事な要件です。

懸念されているのが、競技施設が豪華さを競い、交通・通信・警備などのインフラ整備の関係費が膨張することです。大型公共事業バラマキの安倍晋三政権のもとで、早くも乱開発や浪費に拍車がかかるおそれが出ています。国民・都民の生活や福祉を圧迫し、環境を破壊するやり方は戒められなければなりません。

IOCできびしく指摘されたのが、福島原発事故と放射能汚染水の流出問題です。安倍首相はプレゼンテーションで「完全にブロックされており、安全だ」とうそびきました。しかし、放射能汚染水の海洋流出は続いており、日本国内はもちろん国際的にも重大問題になっています。事実を認めようとしない首相の態度はあまりにも不誠実であり、多くの国民やアスリートの気持ちとはまったく相いれないものです。

#### 安全と安心保障して

安全で安心できる国際交流を保障するのが、オリンピック開催の第一条件です。この点で、東京開催が手放しで信任されたわけではありません。いよいよ「東京2020」に向けた準備が始まりますが、このことを肝に銘じて、政府が不安の解消と課題の解決に真剣に取り組んでいくことです。

ご意見・ご要望および情報をお気軽にお聞かせください。